

2015 Coupe du Japon MTB XCO びわこ高島大会レースレポート

BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM 齊藤 亮

+++++

大会名：2015 Coupe du Japon MTB XCO びわこ高島大会レースレポート

期日：2015年5月3日（日）

会場：滋賀県高島市 朽木スキー場 / 朽木スノーパーク内 TIOGA マウンテンバイクパーク

天気/気温：曇/23℃

競技種目：男子エリート 4.48 km x 6 Laps

参加数：79名

結果：2位

Web：<http://www.846.info/>

+++++

2015年シーズンの国内開幕レースとなる「Coupe du Japon」びわこ高島大会。今年から UCI クラス 3 に位置付けられ、国内でも UCI ポイントが獲得できる貴重な大会となった。既に海外では数多くのレースをこなしてきたが、国内の初戦はやはり特別な感情がある。ここ 3 シーズンは国内開幕戦を勝利してきただけに良い流れを作りたい。そして昨シーズンもシリーズ戦を制したことで今年のゼッケンナンバーもチャンピオンの証でもある「1」。この「1」を付ける喜びと重圧、プレッシャーもこの「1」の宿命だ。

今レースも GW 期間中ということもあり、交通渋滞や長時間の車移動なども考慮した上でレース 2 日前に現地入り。初日は凝り固まった体と筋肉を解す程度に琵琶湖周辺を 1 時間半のリカバリーライド。先週までのトルコ遠征の疲れは多少あるものの、身体と気持ちが少しずつリンクし始めていた。レースに向けて自分のイメージをしっかりと持ち、心と身体の両方を整えていく。レース前日は午前中ゆっくりと過ごし、お昼過ぎに会場入り。チームスタッフと機材に対する意見交換をしたのちにコース試走開始。昨年のコースとは若干の変更があるものの 7 割方は同コース。路面状況は完全ドライコンディションで走りやすいものの、石砂利を敷き詰められ完全に乾ききった下り路面は砂埃を巻き上げ非常に滑りやすい。タイヤ選択にはあまり悩まずにドライ系タイヤをチョイス。コースはスキー場の傾斜に設定され、平坦がほとんどなく登って下るといったシンプルながらタフなコース。ジャンプ、ドロップオフ、スイッチバック、キャンバー、ウィップ・・・などバリエーションが豊かな故に休みどころがなく細かなテクニックが必要とされる。登りはひたすら登りまくるパワークライム。コース試走では 4 周走り込み、ある程度のイメージを掴むことが出来た。スタッフやサプライヤーさんとの最終打ち合わせを済ませ会場を後にする。

レース当日。予報通りの天気。この日は少し風が強く前日までの暑さを感じない。チームスタッフは早朝から会場入りし、レースバイクを最高の状態に仕上げスタンバイ。レース 2 時間前に会場に到着するといつも通りホルメンコールのサービスマンがバイクフレーム・チェーンのコーティング作業をしてくれている。何度も話し合いを重ね、テストを繰り返し、常に妥協せず最

良のケミカル選択をしてくれるので不安要素は全くない。それぞれの思いがバイクにも乗り移っているのを感じる瞬間と言える。

男子エリートのスタートは13時30分。万全の状態スタートラインへと送り出してもらい、最前列中央のスタートラインに並び、号砲を待つ。課題のスタートダッシュも成功し、落ち着いたクリートをキャッチ。スタートからチームメイトの平野選手が積極的に先頭に出てレースを引っ張る。しっかりとマークしつつ、ハイペースでレースが展開されていく。序盤から思うように身体が動かず苦しい走りに……。ペース配分を考えながら、走り方やライン、勝負所を自分なりに窺う。序盤から平野選手の一人逃げを許してしまい、予想通りの展開ではないが必死に前を追う。しかし2周目中盤の長い登りでは失速していくのが自分でもはっきり分かるペースダウン。苦しさに耐えながらトップを追うが、その差はじわじわと離れていく……。後続の様子を窺いながら我慢我慢のレースが続く。気持ちだけは折れないように集中しながら周回を重ねる。4周目で後続のペースが落ちているとの情報が入ったので、そこを見計らうようにトルクを掛けて更に後続との差を広げる。しかしトップ平野選手とのタイム差を縮めることは出来ず単独2位を走行。緩急を付けた走りであまく乳酸を処理しながらレースを組み立て自分の走りに徹する。ファイナルラップも苦しさに耐えプッシュし続けたが、2分近いタイム差を付けられ2位でのフィニッシュ。

本来の自分の走りが出来なかった悔しさはあるものの、ゴールラインではいつも温かく迎え入れてくれるスタッフや関係者の笑顔を見れば自分も自然と笑みが出る。今シーズンは色々と噛み合わないことも多く、正直フラストレーションも溜まっている……。しかし悔しい時も嬉しい時も常に一緒に戦い、支えてくれるスタッフ、サプライヤーの皆が何よりも心の支えとなり、心強く辛抱強くレースに集中することが出来ている。レース中に感じたこと、終わって気付くこと、全てをしっかりと受け止めてまた次に進んでいきたい。次戦は再来週(5月24日)に愛媛県八幡浜市で行われる八幡浜国際クロスカンントリー大会(UCI2)。これから毎週末レースが続く、タイトなスケジュールになっていくが、自覚と責任を果たし、次戦こそ自分らしい走りをしたいと思う。



チームスタッフを始め、サポートして頂いたサプライヤーの皆様、応援して頂いている皆様、

いつも献身的なサポート、ご支援本当にありがとうございます。国内シリーズもいよいよ幕を明け、更に上を目指し飛躍していきたいと思えます。今後ともよろしくお願いたします。

【リザルト】

1. 平野星矢 長野県/ BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM
2. 斉藤 亮 長野県/ BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM
3. 恩田祐一 新潟県/ BH RACING MTB TEAM
4. 小野寺健 京都府/ MIYATA-MERIDA BIKING TEAM
5. 門田基司 愛媛県/ TEAM GIANT
6. 沢田 時 滋賀県/ BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM

【使用機材】

バイク : ANCHOR / XR9 (S サイズ)

コンポーネンツ : SHIMANO / XTR Di2(FC-M9000-2) 36T-26T

ホイール : SHIMANO / XTR WH-M9000-TL-27.5

シューズ : SHIMANO / SH-XC90

ペダル : SHIMANO / PD-M9000

ハンドル : SHIMANO PRO / THARSIS

ステム : SHIMANO PRO / THARSIS

シートポスト : SHIMANO PRO / THARSIS

フロントフォーク : SR SUNTOUR / AXON-WERX-RC-RL-RC AH CTS 27.5/100MM

タイヤ : SCHWALBE / RACING RALPH (27.5×2.1)

サドル : fi'zi:k / TUNDRA3

ヘルメット : KABUTO / ゼナード(アンカースペシャルモデル)

サングラス : adidas eye wear / evil eye halfrim pro / クリスタル S グラデーション

ケミカル : HOLMENKOL

チェーン : ルーベエクストリーム、 ダートプロテクター

フレーム : スポーツポリッシュ、 アクアスピード

クリーナー : ルフトチェーンクリーナー、 ルフトコグブラシ、 ライニガー、 スポーツ
クリーン、 バイクウォッシュ、 クリーナー8in1

ウェア、シューズ : ハイテクプルーフ

サングラス : ノーフォグ

時計メーター : SUUNTO / AMBIT3

ネックレス : SEV

ドリンク : SAVAS (株式会社明治)

サプリメント：SAVAS（株式会社明治）

レースウェア：WAVE ONE

レースグローブ：KABUTO / PRG-3

アンダーウェア：CRAFT

インソール：SUPER feet / Black

アパレルウェア：Columbia

ザック：deuter

テーピング：New-HALE

